

第11回 1F地域塾

1F廃炉の多様な将来像の探究

松岡 俊二

1F地域塾・塾頭

早稲田大学ふくしま浜通り未来創造リサーチセンター長

早稲田大学国際学術院・大学院アジア太平洋研究科・教授

smatsu@waseda.jp

2024年9月28日

1F地域塾：1F廃炉の先を考える地域塾の歩み

第1回1F地域塾：キックオフ：バタフライ・エフェクトのはじまり

日時：2022年7月16日（土）13:30-18:00

会場：ふたば未来学園・地域協働スペース＋Zoom

参加：78名（塾生51名、会場65名、オンライン13名）

第2回1F地域塾：1F廃炉の現状と将来像を考える

日時：2022年9月10日（土）13:00-18:00

会場：ふたば未来学園・地域協働スペース＋Zoom

参加：77名（塾生 47名、会場 57名、オンライン 20名）

第3回1F地域塾：1F視察と1F廃炉の先を考える「対話の場」

日時：2022年9月17日（土）10:10-18:00（10:00-14:00：1F視察）

会場：1F視察＋ふたば未来学園・地域協働スペース＋Zoom

参加：86名（塾生 51名、会場 83名、オンライン 3名）

第4回1F地域塾：地域のなかの1F廃炉と1Fの将来像を考える

日時：2022年10月1日（土）13:00-18:00

会場：ふたば未来学園・地域協働スペース＋Zoom

参加：68名（会場57名、オンライン11名）

第5回1F地域塾：原子力災害の記憶の継承と1F廃炉の先を考える

開催日時：2022年12月10日（土）13:00-18:00

会場：ふたば未来学園・地域協働スペース＋Zoom

参加者数：38名（会場32名、オンライン6名）

第6回1F地域塾：ALPS処理水」の海洋放出と1F廃炉の先を考える

日時：2023年5月20日（土）13:00-18:00

方法：ふたば未来学園・地域協働スペース+Zoom

参加：48名（会場44名、オンライン4名）

第7回1F地域塾：1F廃炉の現状と将来を考える

日時：2023年9月9日（土）14:30-18:00（10:00-14:00：1F視察）

会場：ふたば未来学園・地域協働スペース+Zoom

参加者数：69名（会場 61名、オンライン 8名）

第8回1F地域塾：中間貯蔵施設の将来像と1F廃炉の先を考える

日時：2023年12月9日（土）14:30-17:30（10:30-12:30：中間貯蔵施設・視察）

会場：富岡町文化交流センター学びの森（福島県富岡町）会場+Zoom（傍聴のみ）

参加者数：48名（会場 45名、オンライン 3名）

第9回1F地域塾：1号機のおペフロの外周鉄骨から考える1F事故遺構保存の可能性 （第13回ふくしま学（楽）会、福島再生塾・設立準備会と合同開催）

日時：2024年1月28日（日）11:00-18:00

会場：ふたば未来学園・地域協働スペース+Zoom（傍聴のみ）

参加者数：109名（会場 79名、オンライン 30名）

第10回1F地域塾：1F廃炉と事故遺構の保存を考える

日時：2024年6月15日（土）13:00-18:00

会場：ふたば未来学園・地域協働スペース+Zoom（傍聴のみ）

参加者数：62名（会場 44名、オンライン 18名）

第11回 1F地域塾プログラム・タイムテーブル

総合司会：小磯匡大(副塾頭、ふたば未来学園)・鈴木貴人(ふたば未来学園)

14:50-15:00: 開会挨拶

第11回1F地域塾の目的: 廃炉の多様な将来像の探究: 1F視察を踏まえて

15:00-15:20: 話題提供

ふたば未来学園の探究活動と1F地域塾: 1F視察の感想

林 裕文(ふたば未来学園) + 1F視察参加高校生

(10分休憩)

15:30-16:40: 少人数グループによる「対話の場」

1F廃炉の多様な将来像を考える

(10分休憩)

16:50-17:40: 全体会

グループからの報告と討論

司会・崎田裕子(副塾頭、環境ジャーナリスト)

森口祐一(副塾頭、国立環境研究所・理事)

井上 正(副塾頭、電力中央研究所名誉研究アドバイザー)

17:40-17:50: 閉会挨拶

1F廃炉の先を考える1F地域塾 「対話の場」＝「学びの場 (learning community)」のお願い

1. 全ての参加者は「〇〇さん」という「さん付け」で呼ぶようにお願いします。
2. 自分と異なる意見であっても否定をすることなく、なぜそのような意見が主張されるのかを、相手の立場に立って理解する努力をお願いします。
3. 1F地域塾を通じて、「他者の靴を履く (put on someone's shoes) 能力」＝エンパシー能力を形成したいと思います。
4. 公平な対話の機会の実現のため、1回の発言は短く、長くても2分以内でお願いします。
5. 1F廃炉の将来の選択肢を考えるため、多様な材料や情報を自分で学ぶことを大切にしましょう。
6. 報道関係者の取材があります。可能な範囲でご協力をお願いします。

会話と対話の違い、「対話の場」の4つの要素

会話 (conversation) と対話 (dialogue) は全く違う (平田オリザ)

「会話が、お互いの細かい事情や来歴を知った者同士のさらなる合意形成に重きを置くのに対して、対話は異なる価値観のすり合わせ、差異から出発するコミュニケーションの往復に重点を置く」 (平田オリザ(2015)『対話のレッスン:日本人のためのコミュニケーション術』講談社, pp.168.)

「対話の場 (Place of Dialogue)」の4つの要素

- (1) 「対話の場」のオーナーシップと「場」の性格: 「場」の公開性・透明性や公平性
- (2) 「対話の場」のメンバーシップと対話的土壌の涵養
- (3) 「対話の場」の協働とパートナーシップ: 共感に基づく協働意識の醸成
- (4) 「対話の場」のマクロ・ミクロ・ループ: 「学びの場 (Learning Community)」への進化

日本社会と「対話の場」

「朝早くホラ貝の鳴る音で目が覚めた。村の寄りあいがあるのだという。

・・会場の中には板間に二十人ほどがすわっており、外の樹の下に三人五人とかたまってうずくまったまま話しあっている。

・・村で取り決めをおこなう場合には、みんなの納得のいくまで何日でもはなしあう。

・・私はこの寄りあいの情景が眼のそこにしみついた。

・・会合では郷土も百姓も区別はなかったようである。領主一藩士一百姓という系列の中におかれると、百姓の身分は低いものになるが、村落共同体の一員ということになると発言は互角であったようである」 (宮本常一(1984)『忘れられた日本人』岩波書店, pp.11-20)

第11回IF地域塾

IF 廃炉の先を考える、語りあい、学びあいの場

2024.9.28

ふたば未来学園の探究学習 とIF地域塾

～開学後10年で積み重ねてきたこと～

本日の流れ

- 1 改めて建学の精神と理念
- 2 未来創造探究での実践
- 3 地域との向き合い方
- 4 まとめ



福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
地歴公民科・企画研究開発部主任 林 裕文



1-1 建学の精神と理念(未来創造探究が大切な理由)

開校の背景

震災により双葉郡に元々あった5校は休校に。
新しい学校をつくる構想へ。

どんな教育が必要か？

「豊かな社会とは何か？」

既存の価値観や社会の在り方を見直したり、
新たな社会像を描ける人材育成を目指す。

ふたば未来学園が目指す教育

自らを変革し 地域を変革し 社会を変革する
「変革者」を育成する



スクールミッションと探究学習のメインテーマが連動

1-2 10年間の探究指導の注力ポイント

探究指導 模索期

上位層の生徒を伸ばす指導

震災後の心のケアを必要とする生徒への学習指導・生活指導

1～3期生 **SGH5年**
H27～H29年度入学生

探究指導 成熟期 組織的指導体制の充実

- エッジの効いた探究の減少
- 学習・探究に疲弊感を感じる生徒の増加

- 中間層の多様さ
- 探究の質の向上

4～6期生 **グローバル型3年**
H30～R2年度入学生

探究指導 質的転換期 探究での生徒の学びをを最大化

- 高度な学びを届ける仕掛け

東北大学『学問論演習』
早稲田大学『IF地域塾』『地域未来塾』

- 系列の特性に合わせた学びのデザイン

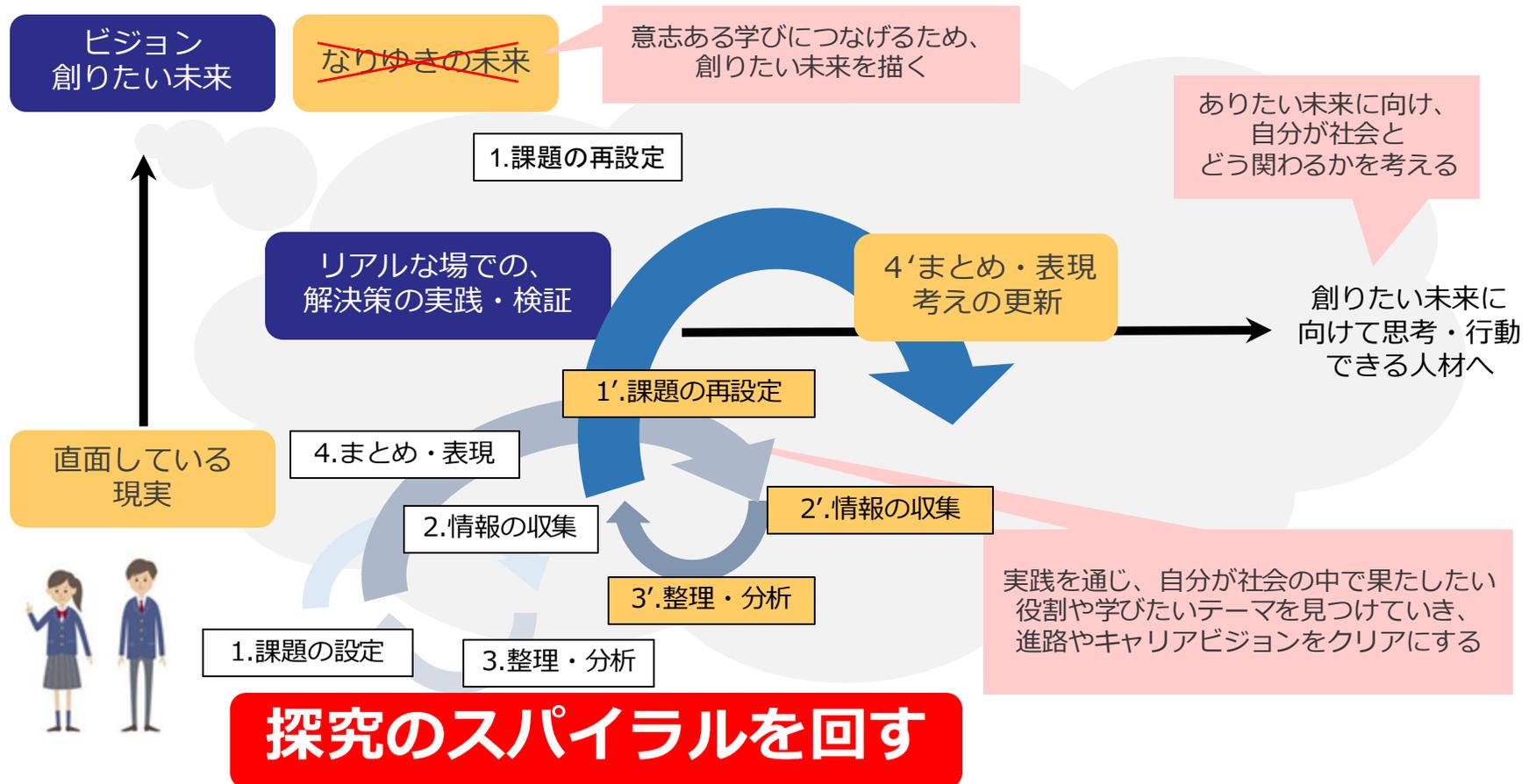
トップアスリート系列
競技力向上 × 探究
栄養・食事 × 探究
競技力向上 × 海外交流 × 探究

7期生～ **WWL3年**
R3年度入学生

2-1 未来創造探究とは（概要）

生徒ガイダンス用

意志ある創りたい**地域(社会)の未来**を考え、
その為**に解決すべき課題**の設定・解決策の**実践を繰り返す授業**です。



未来創造 = 「自分の未来」と「地域の未来」の関わり方

2-2 未来創造探究のコアになるもの

探究の
スパイラル

- 自らの「好き」や「興味関心」(Will) を出発点にして
- 地域や社会の課題(Need) とつながる、自分なりの問いを設定し
- 各教科で身につけた力が探究の見方・考え方を発揮しながら、解決に向けた実践(アクション)を重ねる ⇒ 教科と探究の往還
- 問いを更新しながら何度も試行錯誤する



探究を通して
身につけること

- 混沌とした実社会で未来を創造する資質・能力の獲得
- 自らの在り方生き方や、創りたい地域・社会を見出す



福島課題に取り組むことは世界の課題に取り組むこと

(グローバルな社会課題)

2-3-1 未来創造探究の事例(旧ゼミ：1～7期生)

8期生までで全441プロジェクトが生まれ、**課題解決の探究と実践**に取り組んだ

原子力防災探究	メディア・コミュニケーション探究	再生可能エネルギー探究
<ul style="list-style-type: none"> ①多様性が認められる社会 ～ファーマーズマーケット ③地域交換留学 ⑤鉄たまごという地域の可能性 ⑤マイクラでつくる双葉郡 ⑥Let's cheer up ふたば!! ⑥子どもと若者の社会参画 ～未来のカタチ～ 	<ul style="list-style-type: none"> ④偏見払拭！！ 「障がいと歩む福島の未来」 ④浜通りの魚をなめんなよ ⑤もったいないバナナ ⑤futaba media ⑤VR in Futaba (メディア×原子力防災) ⑥生理によりそう探究 ⑥東日本大震災を絵本で伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ①②③微生物発電 ④エネルギー×教育 ⑤トリチウム処理水から学ぶ ⑤リモネン ⑥再エネで広野町に彩りを (原子力防災×再エネ) ⑥災害時における電気
アグリ・ビジネス探究	スポーツと健康探究	福祉と健康探究
<ul style="list-style-type: none"> ③特産品で風評被害をなくす ④富岡さくら復興プロジェクト ～届け！さくらタピオカ～ ④風評被害なんて言わせない ⑤大熊×いちご×私 ⑥ふたばの新土産 石鱈石けん ⑥美容で双葉郡の魅力を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ④スポーツ×国際交流 ④スポーツの楽しさを子どもたちに教える(⑤TikTok ～いきいきプロジェクト～ ⑤貧血に悩む女性アスリートを少しでも減らそう ⑥ケガゼロプロジェクト ⑥バドミントンで地域活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ②なぜ保育士は復職しないのか ③美容でいきいきプロジェクト ④折り紙で認知症予防 ⑤Make your life in a shelter better-これからの災害に備えて- ⑤子どもロコモ改善プロジェクト ⑥ひとりひとりが取り組む防災 ⑥DANCEでたくさんのSMILEを！

①～⑦は○期生を表す。 は外部発表にて表彰されたPJ。 は学会・シンポで等で発表したPJ

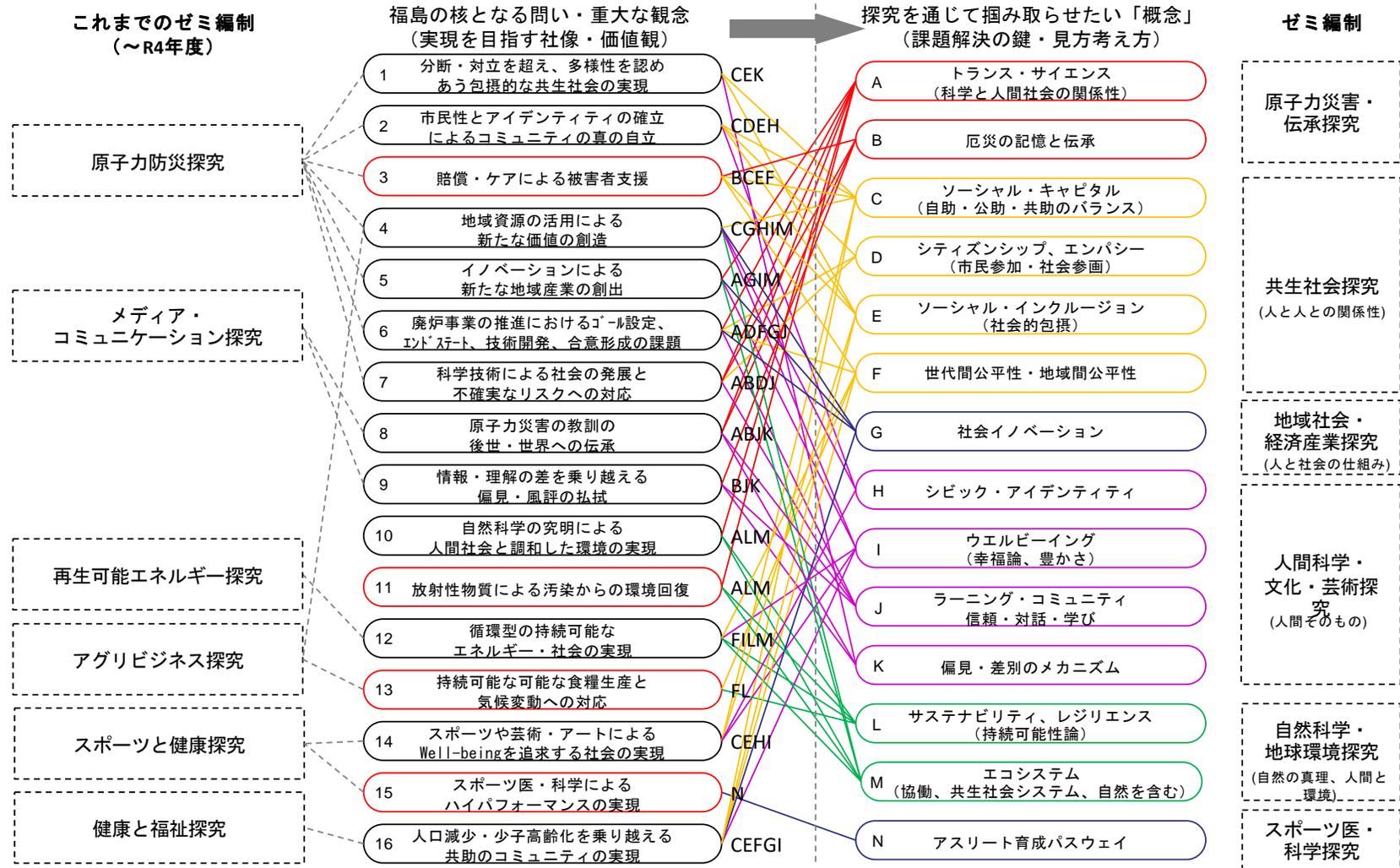
2-3-2 未来創造探究の事例(新ゼミ：8期生)

8期生までで全441プロジェクトが生まれ、課題解決の探究と実践に取り組んだ

原子力災害・伝承探究	共生社会探究	人間科学・文化・芸術探究
<ul style="list-style-type: none"> ⑧UPCYCLE ⑧震災から学ぶ地域医療 ⑧FUTABA CRAFT ⑧本の未来を考える ⑧故郷を語り継ぐ ⑧神社を使って地域のつながりを作りたい ⑧対話の地図 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧AIと生きる社会 ⑧元犯罪者の社会復帰支援 ⑧幼児期からの英語教育 ⑧自己主張って難しい ⇒全国マイプロ2023出場 ⇒全国ベスト6入賞 ⑧対話のユニバーサルデザイン化 ⑧韓国と日本の交流を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧復興の需要と供給 ⑧社会問題onTRPG ⑧演劇教育の推進 ⑧「わたしたちだってできるもん!!」 ⑧Full of FAN! ⑧10代が暮らしやすい社会づくり ⑧あつまれ！てつがくカフェの森 ⑧原発事故と食
地域社会・経済産業探究	自然科学・地球環境探究	スポーツ医・科学探究
<ul style="list-style-type: none"> ⑧WSP(ウッド・ストロー・プロジェクト) ⑧大熊いちごプロジェクト ⑧タウンカロンで広野町を盛りあげよう ⑧やぎP(ヤギプロジェクト) ⑧小川町を知ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧五社山おろしの研究 ⑧微生物発電 ⑧カメムシの香水を作る ⑧双葉郡の水生生物 ⑧ホテル保護のためのカワニナの生態調査 ⑧Reflower大熊(放射能汚染土壌の再利用に関する研究) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧バドミントンの面白さを知ってもらおう ⑧PHと疲労の関係について ⑧サッカーと紫外線 ⑧効果的な補食 ⑧競技力を高める探究(各競技)

⑧は8期生(現高3生) は外部発表にて表彰されたPJ。 は学会・シンポ等で発表したPJ

2-4 探究を通じて掴み取らせたい概念



福島の核となる問いを高校生に提示できてないという課題

3-1 双葉郡の現状（概要）

- ・ 東日本大震災による原発事故により現在も避難者が続く現状。8町村によって進捗が様々なからこそ、一律的・一体的な動きや支援が難しい現状。
- ・ 廃炉作業、教訓の伝承、コミュニティ/生業の再生、過疎など、多くの課題を今も抱える。



	住民登録人口 (2011年3月)	住民登録人口 (2021年2月)	避難者数 (2021年2月)	居住者数 (2021年2~3月)
広野町	5,490人	4,699人	545人 (県外107人)	4,234人 (2,178世帯)
檜葉町	8,011人	6,761人	2,733人 (県外501人)	4,050人 (2,069世帯)
富岡町	15,960人	12,319人	10,739人 (県外2,119人)	1,585人 (1,113世帯)
大熊町	11,505人	10,247人	10,247人 (県外2,394人)	285人 (243世帯)
双葉町	7,147人	5,773人	5,772人 (県外2,042人)	0人 (0世帯)
浪江町	21,434人	16,681人	20,072人 (県外6,051人)	1,596人 (1,001世帯)
川内村	3,038人	2,519人	466人 (県外84人)	2,051人 (1,040世帯)
高尾村	1,567人	1,376人	925人 (県外56人)	432人 (208世帯)

3-2 地域＝地元？ 地域のとらえ方・向き合い方

自分たちが暮らす地域
ローカル

日本を含む国
ナショナル

複数の国を含む
地域 リージョン

世界
グローバル

小川幸司氏の重層的な
「世界史」の捉え方とも通底

海外研修などで出会った人

海外

国内研修などで出会った人

日本

演劇WSで出会った人

福島県

バスツアーで出会った人

学校の先生
カフェのお客さん
地域の住民

双葉郡

楢葉町 富岡町
大熊町 浪江町
双葉町 葛尾村
川内村

いわき市
会津若松市
福島市
など

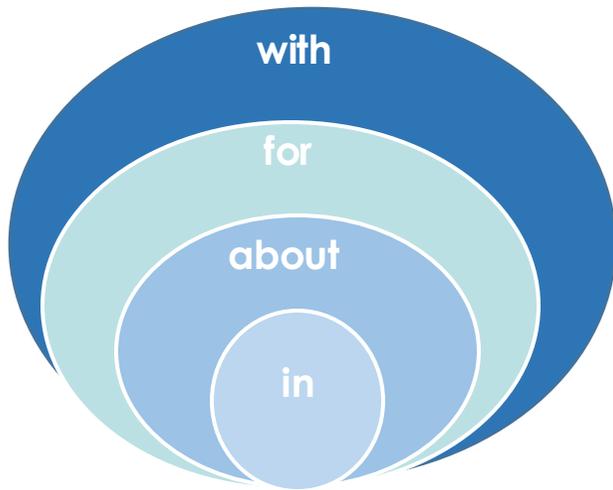
広野町



ふたば未来学園

 **探究** 「地域」＝「自分にとって大切な人たちがいるところ」と仮置き
GLOCAL＝GLOBAL＋LOCALな視点で往還

3-3 地域協働のポイント



- ・ in -地域に入る
- ・ about -地域について知る
- ・ for -地域のために活動する
- ・ with -地域とともに行動する

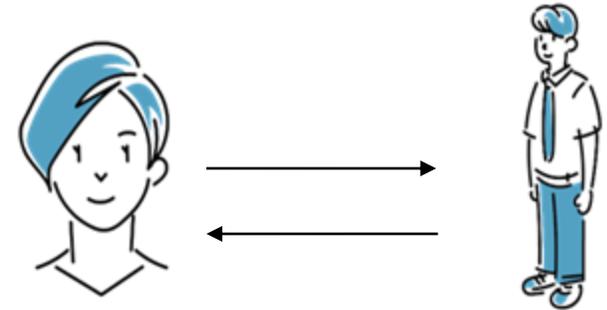
イベントへ参加する

地域の人へインタビュー

廃炉のイベントを行う

地域で対話の場を作る

島根大学教育学部
中村怜詞准教授資料より作成



地域の方

生徒

- ・ 生徒にとって良い学びになっている。
- ・ 地域の人にとって、自分の活動にもつながっている。

いきなり"for"や"with"は難しい
"in"や"about"からスタートする

片方だけの善意に依存しすぎると
持続的な関係にはならない

💡 地域探究が生徒だけではなく地域の人にとっても
ウェルビーイングが高まる結果になることが理想

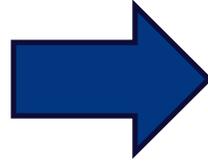
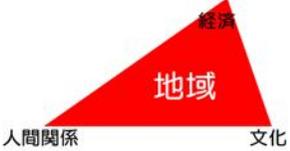
3-4 「福島の問題」と「世界の課題」は相似形！

未来創造探究

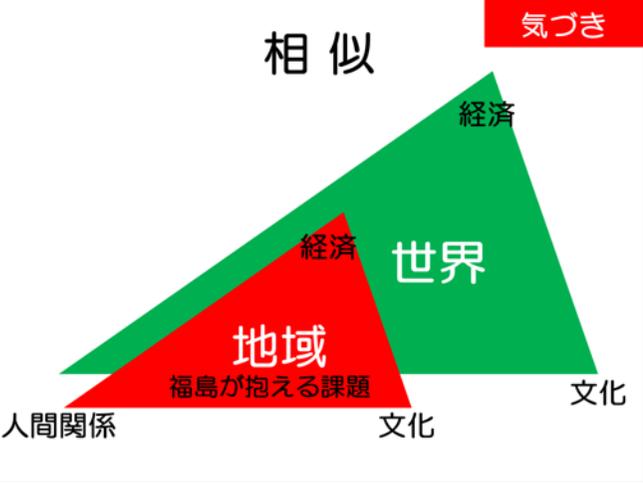
地域創造と人間生活



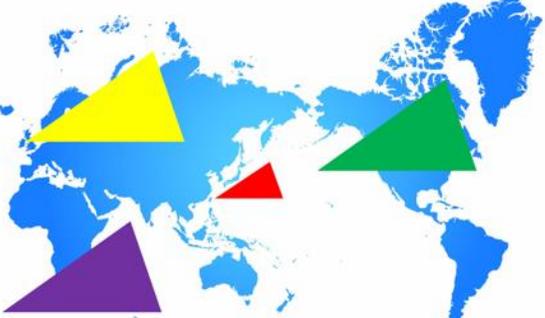
双葉郡ツアー等で現状を学ぶ
課題を演劇で表現し理解



相似



世界、他国と比較して、ヒントを得る



気づき

空間軸で比較する

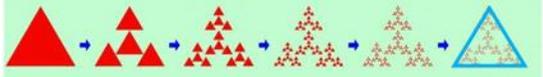
歴史の中にヒントも・・・



気づき

時間軸で比較する

数学や自然の中にも、思考のヒントが



地域 日本 世界

本質は何？



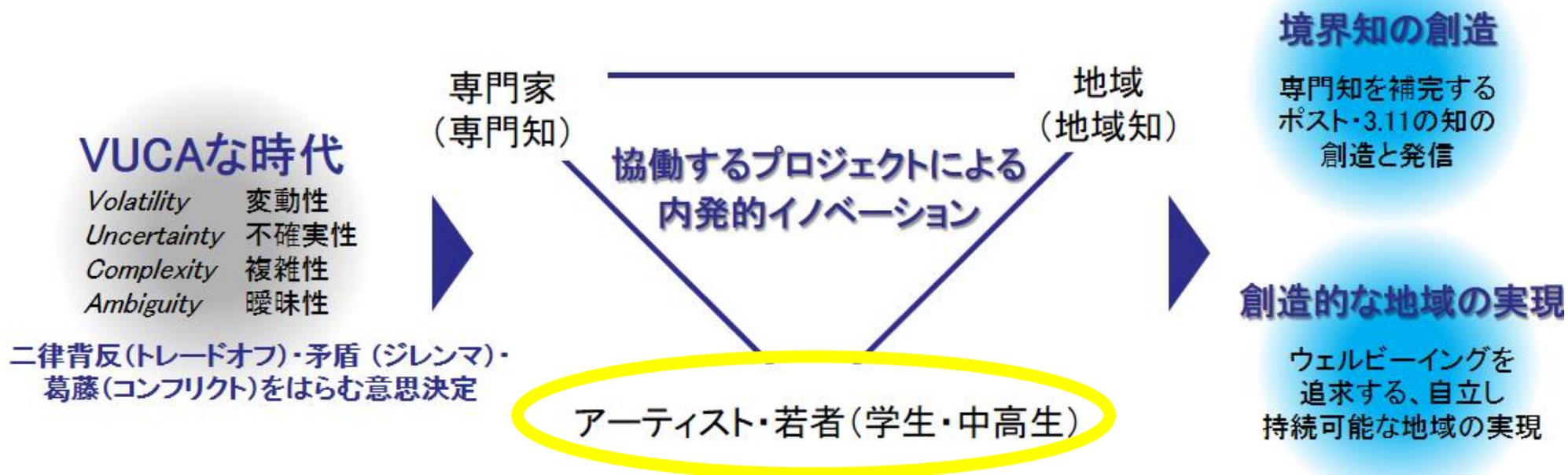
気づき

他教科の見方で比較する



課題を把握させる部分は社会科教員の強み

3-5 地域における高校生の力・役割



- ・立場やしがらみのない学生が専門知／地域知をトリックスター的につなぎ、いじくりまわす(TINKERING)
- ・ヨソモノ、ワカモノ、バカモノ…言い換えれば「外部、未来、ふまじめ」(小松理虔『新復興論』)

福島から震災の教訓

分担と対立によって生まれる
「震災の語りにくさ」
↓
理解され難い苦しみ
分断と対立の構造



「専門知」(大学教員)と「地域知」(地域住民)をつなぐ存在

3-6 地域協働の先にあるもの



東日本大震災・原子力災害
伝承館の研究者・生徒・
教員・カタリバとの
交流イベント



映画『1/10Fukushimaを
きいてみる』
上映会&トークショー&交流会



教員・生徒・地域の方・カタリバの
スタッフが福島の地域課題について
自由に意見を言い合う対話イベント
『探究ごちゃまぜ探究会議』



◆地域協働の意義とは？

- 生徒にとっての越境学習（学校では出会えない異質との遭遇）
- 生徒の自己有用性、将来地域の人役に立ちたいという思いに強い相関関係。
- 卒業生が地域に帰ってくる / 地域の方が卒業生を応援している。

 **地域復興と教育の相乗効果を生み出す探究学習**

3-7 高大連携(大学や地域と研究会を開催)

① 「ふくしま学(楽)会」など各種研究会の開催 (地域知・専門知への接続)

半年に一度双葉郡内で開催されている早稲田大学とふたば未来学園が主催している「ふくしま学(楽)会」…福島県の復興と廃炉について、中学生・高校生・地域の大人・NPO・地域組織、国や行政機関、大学・研究機関など多様な大人が集まって考える「対話」の場を作る

IF地域塾

…地域の多様な方々が「IF廃炉の先」の選択肢について共に考え、語り、学ぶ場をつくる

これまで生徒が30プロジェクト以上発表
(2024年1月までに13回開催)

② 探究活動への協力 (専門知への接続)

中学校「未来創造学」、高校「未来創造探究」での生徒プロジェクト一覧を基に、適切な助言者(専門家)を紹介いただき、助言やプロジェクトの支援をいただくとともに、生徒の発表会でも講評・審査にも専門家の視点で参画いただく。



生徒の探究内容について大学の先生方が助言・支援



「ふくしま学(楽)会」で多様な主体で議論を深める



生徒たちの探究の加速
(事例「H30 高校生と考える廃炉座談会」)

3-8 卒業生の事例(1~3期生)

卒業生の地元等での活躍(一期生①・二期生②・三期生③) ※把握できているもののみ

地域振興に貢献している卒業生

四大⇒富岡町役場①(2名)、川内村役場①
大熊町役場②

地元企業で活躍している卒業生

看護師①、Jヴィレッジ①、広野火力①、
地元ホテル①、1F関連企業①②④など

卒業時アンケート(本校の学びと生き方への接続)

Q. 社会とどう関わっていくかを見出した

Q. 自分の価値観を考えることに繋がった

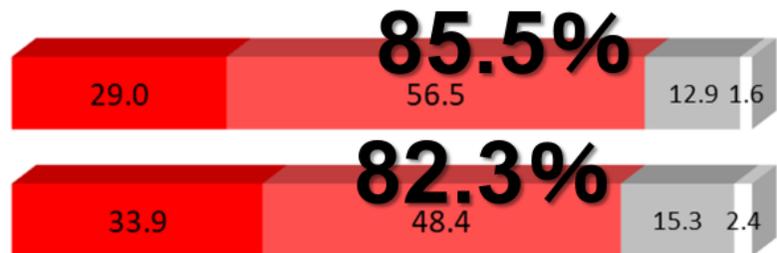
- 4 大きく影響した(繋がった・活用した)
- 3 ある程度影響した(繋がった・活用した)
- 2 あまり影響しなかった(繋がらなかった・活用しなかった)
- 1 全く影響しなかった(繋がらなかった・活用しなかった)

地元のために活躍している卒業生

NPOで復興に貢献①、川内村農業企業①、
学び舎ゆめの森教諭③

海外で活躍している卒業生

海外の大学に入学
プロスポーツ選手(バドミントン、サッカー)



※六期生(令和5年3月卒業)本校舎生103名、令和4年2月28日調査

比較 日本財団 世界の18歳意識調査の日本の結果 (2019年実施)

自分は責任がある社会の一員だと思う **44.8%**
自分の国に解決したい社会課題がある **46.4%**



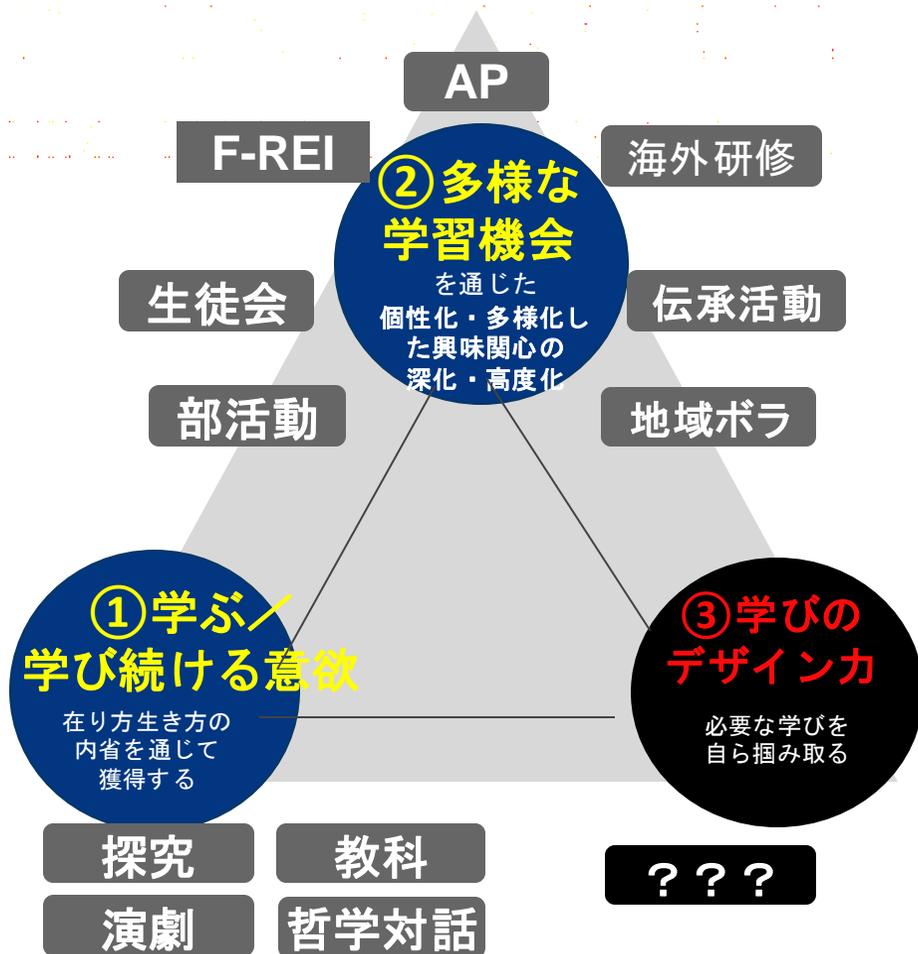
探究を通じて「社会や地域とどう関わって生きていくか」を考える

4-1 まとめと今後の課題①：自律的な学習者を目指して

主体的な学びを支える
意欲とデザイン力

対話と協働を体現する
能動的市民性

探究を加速させる
高度な知識技能



キーワード

- ①-1.内省（リフレクション）
 - ✓ 興味関心・内発的動機を基点とした学習
 - ✓ 自己内省を通じた在り方生き方の深化
- ②-1.リソースシェア
 - ✓ 外部機関、地域との連携
 - ✓ 学校間連携による教師リソースのシェア
- ②-1.「越境」による多様な他者との対話と協働
 - ✓ 「境界知作業者」
 - ✓ 「総合知」による課題解決
- ③-1.「自律的な学習者」の育成
 - ✓ 自己調整学習
 - ✓ メタ認知
 - ✓ 学びの統合
- ③-2.どの「場面」で育成するか？

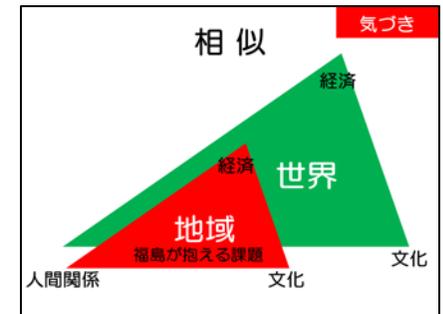
4-2 まとめと今後の課題②：ふたば未来の探究者として

「変革者」は世界に飛び出すとなんと呼ばれるのか？

- 「Change Maker」(チェンジメーカー)
⇒探究は何のためにするの？ 変革者は何をどう変えるのだろうか？
⇒自分の才能と情熱が会う場所を探して、common goodな未来を創る

地域の課題と世界の課題の相似形を見つける

- 自分のWill(興味・関心)が先でも、社会のNeed(課題)がどちらが先でも構わない。
⇒福島の課題が個人の興味関心よりも先に動機になることはほとんどないが感情が揺さぶられることはあり得る。



2100年まで生きる人のために(「境界知」としての態度)

- 自分の力だけではアクセスできない福島の課題を地域の大人や専門家と一緒に考え続けるために「知ったかぶり」をしない。
「わからない」ことは「わからない」といえる科学的態度をもつ。

資料1 育てたい人材像 (ルーブリック)

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 人材育成要件・ルーブリック(6 April 2021 Ver.)

学力概念	No	資質・能力・態度(まとめ)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
知識 Knowledge "What we know"	A	社会的課題に関する知識・理解 一般常識や基礎学力をつけながら、世界・社会の状況の変化やその課題を理解するための知識を身に付ける。	地域や社会の成り立ちについての基礎的な知識を得る。	地域の復興に向けた課題や、目の前の課題についての基礎的な知識を得る。	環境・エネルギー問題など持続可能な社会実現に向けた課題や、世界の状況・課題について基礎的な知識を得る。	社会の課題について、習得した知識を深掘し、周辺情報や関連情報を集め理解する。	社会の課題について、目の前の課題と関係する知識を併用してつなぎ、人に説明できるレベルまで理解する。
	B	英語活用力 英語を使ってのコミュニケーションができるようになる。	英語でコミュニケーションをとろうとする関心・意欲・態度を持ち、自分のことについて英語で簡単に伝えられる。	自分の興味関心のあることや、地域について英語で説明できる。	地域や研究内容について、原稿を元に英語でスピーチし、簡単な質疑応答ができる。(SAPRAレベル)	地域や研究内容について、原稿で英語でスピーチし、意見交換ができる。(CAPRAレベル)	地域や研究内容について、ストーリー、データ、事例などを交えながら英語で説得力を持って主張し、議論できる。(SAPRAレベル)
技能(スキル・コンピテンシー) Skills "How we use what we know"	C-1	思考力 物事を論理的に考え、批判的思考で振り返り、スケールの大きな考え方ができる。	与えられた情報を整理できる。	目の前にある課題やその解決のための内容を論理的に振り返りながら考えられる。	メディアを活用して情報を集め、情報を分析・評価・活用しながら課題を発見したり設定できる。	読書と理論の差を踏まえながら、広い視野・大きなスケールで既知の事象について批判的に考え、本質を追求することができる。	未知のことについても振り返りながら考え、自分の考えや常識にとらわれず、本質的・根源的な問いを立て、多角的に考えることができる。
	C-2	創造力 自分なりの見方や好奇心を持って試行錯誤し、社会に新たな独自の価値を創造することができる。	アイデアを生み出そうと、自分なりの見方や考え方に基づいた観察や思考を行うことができる。	好奇心をもって、他者との違いを羨みながら自分なりのアイデアを生み出そうと行動できる。	目の前の課題に対して、これまでに得た知識や技術を関連づけながら、自分なりのアイデアを表現しようとして行動できる。	行動する中での出会いから得られた知見や発想を取り入れ、自分なりのアイデアを社会的に価値あるものに高めることができる。	試行錯誤(創造のスパイラル)を繰り返しながら、価値を更に発展させ、社会に新たな独自の価値を創造することができる。
	D	後援・発信力 どのような場でも発信することなく自分の考えを発信でき、他者の共感を引き出せる。	自分の意見や考えを、他者の前で話すことができる。	突然指名されたときでも怯まず、他者の前で、自分の意見や考えを相手に伝えるように表現することができる。	データや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	多様な人々へ、相手の立場や背景を考えた上、テクノロジーを活用したりしながら、分かりやすく伝えることができる。	多様な人々へ、他者とストーリーを持って届ける形で説得力ある発信を行い、共感を得ることができる。
	E	他者との協働力 異文化・異なる感覚の人・異なる年齢を乗り越え、仲間と協力・信頼しながら互いに高めあえる行動が取れる。	他者や他者の中で、決められたことや指示されたことにより一人で取り組むことができる。	他者や他者の中で、自分の役割を見つけ、個性を活かしながら行動でき、身近なメンバーの支援もできる。	他者や他者の中で、他者の良さに共感し、新たなものを取り入れながら、共通の目標に向かって活動を進め合意形成を目指すことができる。	他者や他者の中で、互いに良い部分を引き出し合うなど、win-winの関係を作ることができる。	分析・対立、文化・国境を超えて、社会を変える行動につなぐし、互いに高めあう同志としての関係をつくれる。
	F	マネージメント力 自分や組織での取り組みを計画性を持って進めることができる。	指示を受けながら作業を実施できる。	指示を持たず、解決に向けた適切な目標を設定し、自発的かつ責任を持って自分の作業を実施することができる。	全体にとって必要な作業を見出し、自分の作業に優先順位をつけて、複数の課題に同時に対応することができる。	作業の繋がりが、全体スケジュールを把握し、チームメンバーで作業を適切に役割分担して目標に向けた行動ができる。	今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで確認しながら進めることができる。
	G	前向き・チャレンジ 自分を意味ある存在として考え自信を持ち、課題解決のために自分の役割を見つけ、全力で取り組み、決してあきらめず実行できる。	自分を意味ある存在として考え、物事をポジティブに捉えることができる。	自分に自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして好意的に捉えて、主体的に取り組める。	他者や他者の中で、自分の役割を見つけ、すぐに解決方法が分からなくても考え続けることができる。	困難にぶつかっても自分の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。	困難にぶつかっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗してもその失敗を糧とできる。
人柄(キャラクター・センス) Character "How we engage in the world"	H	寛容さ 異文化や考えの違う他者を受け入れ、思いやるあたたかさを持ち、信頼して共に高めようとするができる。	他者や他者の中で、他者を気づかせる。	他者や他者の中で、相手の立場や考えを尊重し、共感できる。	他者や他者に対して、思いやりをもって行動し、周囲の幸せを考慮することができる。	考えの違う他者に対して、ユーモアを持って接するなど、他者との違いを楽にする。社会や環境の文化を前向きに捉えられる。	考えの違う他者を受け入れ、自分を、自分や社会をより良くしていくための重要なものと考えて受け入れられる。
	I	能動的市民性 社会を支える当事者としての意識を持ち、地域や国内外の未来を真剣に考えることができる。	所属する集団の一員としての自覚を持つ。	社会の一員としての自覚を持ち、社会の抱える課題に目を向けようとする。	社会をより良くしようと、社会の主体として意識を持ち、社会がより良くなるための考えを持つことができる。	社会に貢献しようとする意欲と自分の価値観を持ち、自ら社会に影響を及ぼそうとする。	社会・未来を良くしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に真摯に語るすることができる。
自らを振り返り変えていく力(メタ認知) Metacognition "How we reflect and learn"	J	自分を促す力 自分の行動や行動を振り返って見つめ直し、常に改善しようとする意欲を持ち、次の行動や、将来の夢に繋げることができる。	自分を向上させるために、自分自身で目標を立てることができる。	自分を向上させるために、自分の目標と現実の差を見つけることができる。	自分の目標に近づこうと努力し、自ら行動することができる。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直して反省しながら、学び続け、次の行動につなげて取り組むことができる。	社会の中での自分の役割や責任を併用して改善し、自分の目標や将来の夢と関連づけて大局的に行動できる。



ふたば未来学園
学校HPより
拡大版の
ルーブリックが
確認いただけます
<https://futabamiraigakuen-h.fcs.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/7668>

寛容さ

能動的市民性

自らを振り返り
変えていく力
(メタ認知)

Citizenship

資料2 WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) 構築支援事業

研究開発構想名	原子力災害からの復興を果たし、新たな社会を創造するグローバル・リーダーの資質・能力の育成
育成人材像	地域や世界の課題と自己の夢とを重ね合わせ、当事者として行動する市民性 立場・価値観の違いによる分断や対立を止揚する協働的ネットワーク構築力 地域の資源を見出し、世界に新たな価値を創造する力

目的	① 本県から東北地区に展開するグローバル人材育成のアドバンスト・ラーニング・ネットワークの形成 ② 探究・海外研修・APを体系的に位置づけたカリキュラム開発 ③ 地域や世界の課題解決に貢献する人材の育成 ④ 「教育」と「創造的復興による持続可能な地域実現」の相乗効果創出
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

機構・地域・大学等と協働したグローバル課題解決探究プロジェクト

④ 「教育」と「創造的復興による持続可能な地域実現」の相乗効果創出
 ③ 福島国際研究教育機構をはじめ、地域や全国・海外で世界と協働しながら活躍する人材の輩出

高校生国際会議の開催(国連関係者・海外連携校等参加)

事業協働機関

福島国際研究教育機構(F-REI)

- 探究への専門的助言
- 研究者と生徒による協働プロジェクト
- キャリアカフェ

東北大学

- より高度な探究へ向けての専門的助言
- 生徒主催双葉郡FWへの大学留学生の参画
- 大学授業先取り履修と単位認定

早稲田大学

- 探究への専門的助言(リゾンマネージャー常駐)
- 協働での創造的復興探究プロジェクト【ふくしま学(案)会等】

福島大学

- 個に応じた探究へ向けての専門的助言

NPOカタリバ

- カリキュラム共同開発

大学教育の先取りによる高度な学びの実施

- 大学と連携したアドバンストブレインメントの導入「学問論演習など」(東北大)
- その他文理横断的な高度な学び(東北大・早稲田大学)

福島をフィールドとしたグローバル探究

- 大学連携による文理融合した高度な学問との接続を強化した探究カリキュラムの実践
- 地域課題の取材と演劇を通じて、「創造力」等の資質・能力を強化
- アカデミックライティング等のスキル育成強化

世界をフィールドとしたグローバル探究

- 探究ゼミと連動したプロジェクト型海外研修
- オンライン・対面でのグローバル課題探究授業連携
- 生徒主催の双葉郡FW(東北大、UNIS)
- 外国人指導者等によるグローバル課題やライティングスキル育成

連携校(海外)

国連本部 Civil Society Unit

世界の課題の最前線にむき合っている国連職員と意見交換、議論を行い福島の問題と世界のつながりを構造的に理解する。

国連国際学校 UNIS(アメリカ)

「持続可能な社会づくり」をテーマに地球規模での課題について世界の同世代と意見交換、議論を行う。差別や対立・分断について米国の現状を学び乗り越える方策を探る。

② 探究を軸としたカリキュラム編成と海外研修・APを体系的に位置づけたカリキュラム開発

原子力災害・伝承探究ゼミ	原子力災害からの復興や廃炉など福島固有の問題を軸としながら地域社会の在り方を探究する。	共生社会探究ゼミ	地域に暮らす人と人との関係性や、ウェルネス(健康・福祉・医療)にとどまらない社会的環境の豊かさ)について探究する。
地域社会・経済産業探究ゼミ	断絶してしまった地域コミュニティの再構築について、生業や農産工業などの産業振興や社会システムの観点から探究する。	人間科学・文化・芸術探究ゼミ	人間の心理・行動の分析や、人間が生み出す芸術・アートを生かした社会のあり方について探究する。
自然科学・地球環境探究ゼミ	研究開発拠点が集中する地域特性を活かし、自然現象の真理や、人間社会と地球環境との関係性を探究する。	スポーツ医・科学探究ゼミ	スポーツ医・科学に基づいたハイパフォーマンスの実現や、トップアスリートの育成における社会環境等について探究する。

事業拠点校：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

連携校(県内)

- 福島県立福島高等学校
- 福島県立安積高等学校
- 福島県立会津高等学校
- 福島県立会津学鳳高等学校・中学校
- 福島県立磐城高等学校

① 福島アドバンスト・ラーニング・ネットワークの形成

- 構想目的の共有
- カリキュラム改革(探究カリキュラム強化)
- 連携大学AP科目履修
- 教員指導力向上

管理機関 福島県教育委員会

宮城県仙台二華中学校・高等学校 **山形県立東桜学館中学校・高等学校** **連携校(県外)**

エルンスト・マッハ校(ドイツ)

住民の積極的な参画・関与によるまちづくりや再生可能エネルギーの活用を学ぶ。演劇やプレゼンによる福島の現状報告を行い、地域の理解を促進する。

ブロックハウス・ベイ校(NZ)

中学校3年間の学習の集大成として、「福島の魅力」と福島の今を発信・交流を行う。

シームレスな「縦のネットワーク」

緊密な「横のネットワーク」